

人権・同和問題の解決に向けて

輝く未来(教材編)



「共に学ぶ
地区別懇談会」
をめざして

第五次輝く未来計画(栗東市人権・同和教育推進5ヵ年計画)2021-2025

栗東市では、「一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち」をめざして、「第五次輝く未来計画」を「栗東市人権擁護に関する条例」のもと策定しました。

相手を理解する心、尊重する心を大切にする

人と、地域とつながり、人権の輪を広げる

お互いを認め合う

学びを深める

つながりを広げる

差別の現実を学び、人権・同和問題を正しく理解する

認め合おう お互いを

広げよう つながりを

深めよう 学びを

めざす姿



一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち



人権・同和教育啓発の合言葉

一人ひとりがまず一歩! 差別を「なくす」行動を!

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

～「水平社宣言」^{*}に込められた思い～

※正式名称：全国水平社創立宣言

「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」この言葉を聞いたことがありますか？

今から100年前の1922年3月3日に京都の岡崎公会堂で、被差別部落の人々の解放をめざして「全国水平社」が設立されました。この言葉は、創立大会で発表された「全国水平社宣言」の最後の一節です。「水平社宣言」はわが国はじめての人権宣言と言われています。この言葉に込められた当時の人々の思いや願いから、私たちは何を知り、何を学ぶことができるでしょうか。

水平社宣言（要約文）

全国各地にちらばっている、被差別部落の仲間たちよ、団結しよう。

長い間、いじめられてきた仲間たちよ、明治になって50年の間、さまざまな方法と、多くの人々によってなされた私たちのための運動は、何のありがたい効果ももたらさなかった。それは、そのすべてが、私たち自身が、また他の人々が、つねに人間を侮辱してきた罰だったのだ。これまでなされてきた、人間を軽んじ、憐れむような運動は、逆に多くの被差別部落の兄弟の思いを墮落させてきた。このことを思えば、今、私たちの中から、人間を尊敬することによって、私たち自身を解放するため、自らの自由と平等をもとめる集団運動を起こすことは、当然のことである。

仲間たちよ、私たちの祖先は自由と平等を心から求め実行してきた者だった。厳しい支配政策の犠牲者であり、たくましく社会や文化を支えてきた者であったのだ。しかし、ケモノの皮をはいたことで、周りの人から優しいまなざしを奪われた。ケモノの心臓を裂いた代わりに私たちは、暖かい人間の心を引き裂かれた。そこへあざけりと、くだらない唾まで吐きかけられたのだ。だが、私たちの中には、なお誇りある人間の血が、枯れずに流れていたのだ。そして、私たちはその血を受け継ぎ、人が神のように大切にされる時代に出会ったのだ。その犠牲者の我々が差別を投げ返す時がきたのだ。殉教者キリストのように、荊（いばら）の冠（かんむり）を祝福される時が来たのだ。

我々が差別を受けてきた者であることを誇りうる時がきたのだ。

私たちは、自分自身をいやしくする言葉や、臆病になったりして、祖先をはずかしめたり、人間自身をおとしめたりしてはならない。人の世がどんなに冷たいか、人間を大切にすることが本当はどんなことであるかをよく知っているからこそ、私たちは、心から人生の熱と光を求め、その実現をめざすのである。

水平社はこのようにして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

（出展：大分県教育委員会 部落問題学習推進のための指導資料「水平社宣言より学ぶ」より）

課題Ⅰ

「水平社宣言」を読んで当時の人々の思いや願いを考えましょう。

課題Ⅱ

「水平社宣言」から100年後の現在は、宣言でめざした「あらゆる差別を許さず、だれもが一人の人間として尊重される社会」となったのでしょうか？
今、どのような差別が起きているのでしょうか？

課題Ⅲ

「水平社宣言」に込められた当時の人々の願いに思いをはせ、すべての人の人権が尊重される豊かな社会をつくるため、あなたはどのように行動しますか？

学ぶポイント

部落差別を解消するために



■部落差別(同和問題)

被差別部落・同和地区などと呼ばれる地域の出身であることや、そこに住んでいることを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活の上で様々な差別を受けるという日本固有の人権問題です。本人には何の責任もないことで不平等・不利益を強いられ、自由と平等を侵害するものです。部落差別は過去の問題であるというような考え方は誤りであり、現在の私たち一人ひとりの問題であることを認識する必要があります。

■水平社宣言

創立大会で宣言されたのが、「水平社宣言」です。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」で結ばれるこの宣言は、「人間はいたわるべきではなく、尊敬すべきものである」という精神に立ち、被差別部落の人々だけでなく差別に苦しむすべての人々の解放への思いが込められています。差別されてきた被差別部落の人々が人間の権利と尊厳を獲得し、自らの力と団結によって解放をめざすことを謳った「日本ではじめての人権宣言」といわれています。

■部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)

この法律は、「今もなお部落差別が存在し、部落差別は許されないものである」という認識のもと、部落差別のない社会を実現することを目的として、2016年(平成28年)12月に施行されました。しかし、認知度が低いことが課題です。差別の解消のためには、より多くの人がこの法律の存在を知り、部落差別は許されないものであるという認識のもと、その解消のために行動しようとするのが大切です。この法律を生かしていくのは他ならぬ私たち自身の認識です。いわれなき差別に苦しむ人の立場に立ち、「なぜこの法律が必要なのか」「どのような困りがあるのか」を考えるのが大切です。

私たち一人ひとりが差別をなくす主体者として行動し、
すべての人に人権が守られた「輝く未来」をつくりましょう。

アンコンシャス・バイアス

～知る・気づく・行動する～

知っていますか？ アンコンシャス・バイアス

アンコンシャス・バイアスは、近年注目されるようになった言葉で、「無意識の思い込み、偏見」と訳されます。自分では気づかないまま心の中に持っている偏った見方・考え方、根拠のない思い込み、先入観・固定概念などのことを言います。

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものであり、そのすべてが悪いものではありません。しかし、アンコンシャス・バイアスがきっかけとなり、無意識のうちに、相手を傷つけたり、苦しめたりしてしまふことがあります。問題なのは、アンコンシャス・バイアスを持っていることに自分では気づきにくいことです。

アンコンシャス・バイアスの例

- 血液型を聞いて、相手の性格を想像することがある。
- 「九州出身です。」と聞くと、お酒がすきそうととっさに思う。
- 性別、世代、学歴、職業、所属部署などで、相手を見ることがある。
- 育児休業を長期間取得する男性は、変わっていると思う。
- 「親が単身赴任中です。」と聞くと、まずは父親を思い浮かべる。



課題Ⅰ

あなたの普段の言動や行動を振り返ってみましょう。

アンコンシャス・バイアスのタイプ

アンコンシャス・バイアスには、いくつかのタイプがあります。代表的な5つを紹介します。

ステレオタイプバイアス	人の属性をもとに先入観や固定概念で決めつけてしまう
正常性バイアス	問題があっても、「私は大丈夫」と思い込んでしまう
確証バイアス	自分の考えや経験則を正当化する情報ばかりを探してしまう
権威バイアス	権威のある人の言うことは、間違いのないと思い込んでしまう
同調性バイアス	周りと同じように行動しようとしてしまう

課題Ⅱ

アンコンシャス・バイアスは、人間関係や組織にどのような悪影響をもたらすでしょうか。

アンコンシャス・バイアスの具体例

実際にどんな「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」があるか、具体例を見てみましょう。



ある会社での一コマです。
上司が、子どものいる女性社員に対して、
「お子さんがいるから、
出張は他の人をお願いするね。」
と声をかけました。



課題Ⅲ

具体例の中には、どのような「アンコンシャス・バイアス」が存在しているでしょうか。

課題Ⅳ

アンコンシャス・バイアスに気づくために、今日からできることを考えましょう。

- アンコンシャス・バイアスとは何かを知る。
-
-
-

学ぶポイント

多様性を認め合うために

■課題Ⅰについて

アンコンシャス・バイアスは日常にあふれていて、誰もが持っているものです。問題なのは、気づかないうちに、「決めつけ」たり、「押しつけ」たりしてしまうことなのです。私たちは、常に、アンコンシャス・バイアスがあるということを意識して行動することが大事です。アンコンシャス・バイアスをなくすことは難しいです。大切なのは、自分を含めた誰にでも「無意識の思い込み」があると知ることです。



■課題Ⅱについて

「価値観の否定や能力の決めつけ」「解釈や理想の押し付け」などのアンコンシャス・バイアスは、個人のやる気をなくさせ、成長の機会を奪ったり、人間関係が悪化し、組織全体の風土が悪くなったりするなど、人間関係や組織全体に影響を及ぼします。

■課題Ⅲについて

上司の言葉は、思いやりや気遣いから発せられた言葉であることは予想できます。しかし、この言葉の中には、性別による役割分担などいくつかのアンコンシャス・バイアスが存在しています。そして、受け手側がこの言葉に対して感じる思いも、一様ではありません。大事なのは、「自分にもアンコンシャス・バイアスがあるはず」と意識することです。そうすれば、発信する側は「最初から決めつけずに確認してみよう」、受け取る側は「誤解されているかもしれないから、伝えてみよう」と考え、より良い人間関係が築けます。

2021年度 人権啓発作品



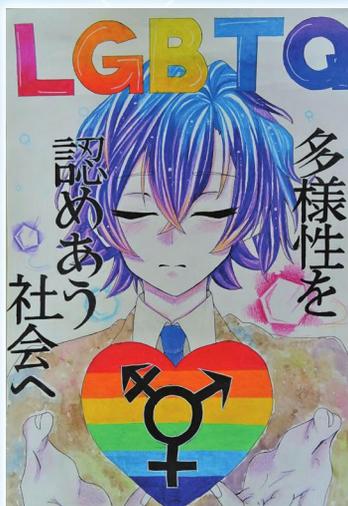
【最優秀賞】
みんながたいせつ



【優秀賞】
みんなともだち



【優秀賞】
一人一人自分らしく



【優秀賞】
LGBTQ
～多様性を認めあう～



【優秀賞】
好きな人

栗東市人権擁護都市宣言



人権とは人間が幸せに生きていく権利で、すべての人が生まれながらに持っている基本的な権利です。

わたくしたち栗東市民は、日本国憲法や世界人権宣言の理念にのっとり、一人ひとりの基本的人権を永久の権利として尊重し、すべての市民が平等に生きる権利を保障する。

よって、正しい人権意識の高揚に努め、不断の努力と実践により、相互の人権を擁護するため、ここに栗東市を『人権擁護都市』とすることを宣言する。

平成3年3月22日